



続・続・大切にしたい「その学校らしさ」

新潟県小学校長会 会長

藤 本 高 雄

校長会報三六六・三六七号の続編です。(新潟県小学校長会HP参照)
朝、大手町小の子どもたちは、登校班ではなく自由に登校してきます。以前、当校の研究をご指導くださったいた奈須正裕先生(上智大学教授)にたびたび言われていた言葉です。

「大手町小の子どもって、朝、学校に向かう足取りが早い。駅近くのホテルから歩いてくるときに大手町小の子どもと一緒にいるけど、皆、歩くのが早くて私をどんどん追い越していく。学校でやりたいことがある子どもたちは、そうなるんだよね。大手町小って感じだね。」今も見られる様子です。
大手町小には、子どもの「思い」「願い」(興味・関心)を重視して教育活動をつくる教育観が昔からあります。学校に向かう子どもたちの足取りを早くさせているのが、この教育観だと自負しています。

次期学習指導要領に向けた論点整理



題字…今山政三郎氏

発行所
新潟県小学校長会広報部
新潟市中央区万代1-3-30
万代シティホテルビル3階
TEL 025-290-2231
FAX 025-245-6060
E-mail: nkskko@niigata-inet.or.jp
印刷所 株式会社 文久堂

では、「自らの人生を舵取りすることが出来る民生的で持続可能な社会の創り手」を育成するために、「好き(興味・関心)」を育み、得意を伸ばしながら、それらを原動力として学び全体への動機付けを図っていく取組」が大事だと示されています。学校が、子どもたちにとって「皆と学びたい」と思える魅力ある場所になる。その実現には「好き」「得意」が大切になるとの方向性です。

加えて、私は、学校の魅力には「その学校らしさ」が必要だと考えます。子どもたちが、自分の学校を大好きになり、自慢に思うこと。それには、その学校らしさは欠かせません。

各校の魅力ある学校づくりに役立つことが校長会の役割です。県内のすべての小学校が、その学校らしく魅力的に輝くよう、校長会として各事業の充実に努めます。

(上越 大手町小学校)

令和8年度 新潟県小学校長会 役員名簿

●本部役員

役 職	郡市・政令指定都市	任 校	氏 名
会 長	上 越	大手町小	藤本 高雄
副 会 長	新 潟	小 針 小	荻野 真美
副 会 長	長岡・三島	希望が丘小	多田 和幸
理 事	対策部	部 長	新 潟 山本 郁雄
		副 部 長	上 越 小林 秀智
		副 部 長	見 附 土佐 和久
	福利部	部 長	上 越 直江津小 清水 憲子
		副 部 長	新発田・北蒲 御免町小 土田 利康
		副 部 長	南魚沼郡 六日町小 小島 誠
	研修部	部 長	上 越 柿 崎 小 小島 隆宏
		副部長(小教研)	五泉・東蒲 五 泉 小 中原 広司
		副部長(教育課程)	新 潟 青 山 小 江口 陽子
		副部長(生徒指導)	三 条 月 岡 小 田邊 輝明
		副部長(同和教育)	新 潟 山 の 下 小 石坂 優彦
	広報部	副部長(同和教育)	新発田・北蒲 住 吉 小 中野 隆一
		部 長	小 千 谷 小 山崎 勝之
監 査	部 長	副 部 長	胎 内 中 条 小 松原 利弘
		副 部 長	長岡・三島 表 町 小 小畑 活
幹 事	幹 事 長	新 潟	巻 南 小 山口 潤
		長岡・三島	青 葉 台 小 伊原 由美
		十日町・中魚	松 代 小 大坪千恵子
庶務・会計	幹 事 長	新 潟	上 山 小 中谷 記子
		上 越	南 本 町 小 梅澤 健一
庶務・災害	幹 事 長	長岡・三島	黒 条 小 平澤亜紀子

●各委員

役 職	郡市・政令指定都市	任 校	氏 名
初等教育編集委員	委 員 長	柏崎・刈羽	半 田 小 小田麻由美
	副委員長	長岡・三島	宮 内 小 山崎 睦子
	委 員	村上・岩船	村 上 小 仙田 満
	委 員	長岡・三島	四 郎 丸 小 平原 哲雄
	委 員	新 潟	牡 丹 山 小 坂井 隆一
	委 員	妙 高	妙 高 小 清水登紀子
	委 員	新 潟	坂 井 輪 小 五十嵐重行
	委 員	新 潟	木 山 小 寺田 武文
	委 員 長	村上・岩船	村 上 南 小 磯部 陸
	副委員長	妙 高	妙高高原小 丸山 文雄
校長会報編集委員	委 員	長岡・三島	上 組 小 新澤美和子
	委 員	柏崎・刈羽	枇 杷 島 小 川尻 優
	委 員	加茂・南蒲	加 茂 小 高橋 道子
	委 員 長	魚 沼	堀 之 内 小 藤田 剛
	副委員長	新 潟	葛 塚 小 間嶋 雅樹
	委 員	新発田・北蒲	東 小 五十嵐 潤
	委 員	上 越	板 倉 小 古川 勝哉
	委 員	魚 沼	小 出 小 葦澤 毅夫
	委 員	新 潟	白 井 小 渡邊 丈夫
	委 員	新 潟	白 井 小 渡邊 丈夫

●事務局

県小学校長会	事務局 長	庶 務	上澤田 誠
	事務局 次長	会 計	大竹 正宏
県・市小学校教育研究会	事務局 長	庶務・会計(新潟小)	小林 隆史

第八十六回県小代議員会 新発田・胎内・聖籠大会

令和八年五月八日(金)
○新発田市民文化会館
実行委員長 角 直 浩

本年度の県小代議員会は、新発田・北蒲原郡市小学校長会、胎内市小学校長会の主管により、新発田で開催された。例年、本部会・理事会を当日の午前中に開催し、午後から代議員会という日程であったが、今大会では、前日の五月七日にオンラインによる本部会・理事会。そして、五月八日の午前から代議員会を開催する日程に変更された。

午後各部の日程に余裕が生まれたことから、充実した部会運営となった。

一 開会式

新潟県及び新潟市教育委員会教育長をはじめ、十六名の御来賓、代議員百十四名、オブザーバー六十七名、本部役員、地元校長会実行委員を含め、総勢二百五十名の参加で行われた。

開会式の挨拶で、藤本高雄会長は、「これまでの学校運営の在り方を見直し、



教員が子どもたちと向き合う時間を確保するため、組織的な改革を進めて行かなければなりません。本日の代議員会が、各校の課題を共有し、解決への方向性を見いだす有意義な場となることを祈ります。」と語った。

来賓祝辞では、まず、新潟県教育委員会教育長 太田勇二様が「県教育委員会としては、昨年度に改定した新潟県教育振興基本計画を策定、運用を開始し、子どもたちの主体性や多様性を尊重する教育を推進しております。また、深刻な教員不足への対応として、教員採用試験の前倒しや選考内容の工夫を行います。さらには、若手教員のメンタルヘルスケアなど、教員が意欲をもって働き続けられる環境づくりにも注力してまいります。校長先生方におかれましては、魅力ある学校づくりに向けて、引き続き御協力をお願い申し上げます。」と述べられた。この後、新潟市教育委員会教育長 夏目久義様、地元を代表して、新発田市立二階堂馨様代理、副市長 渡邊毅様、胎内市長 井畑明彦様、聖籠町長 西脇道夫

様より、御祝辞とともに、激励のお言葉をいただいた。

最後に、今大会にオブザーバーとして参加している新任校長を代表して、胎内市立黒川小学校 高山雄一校長へ、藤本会長から県小校長会章と全連バツジが授与された。高山校長からは、「子どもたちの未来を守り、地域や保護者とのつながりを深め、教職員間の結束を固めながら学校経営を進める決意であります。皆様からの御指導をいただきつつ、諸先輩方の偉大なる功績を受け継ぎ、新潟県の教育発展と振興のために精一杯努力することを誓います。」と決意が述べられた。

二 全体会

議長団として、胎内市立きのと小学校 高橋路子校長、聖籠町立山倉小学校 白井政之校長が選出された。

初めに、令和七年度第二回評議員会で承認された事項の報告があった。令和八年度の役員として、会長に上越市立大手町小学校 藤本高雄校長、副会長に新潟市立小針小学校 荻野真美校長、長岡市立希望が丘小学校 多田和幸校長、そして、理事十五名、監査三名、幹事等の役員の就任が紹介された。その後議事に入り、各議案が提案どおり承認された。令和八年度活動方針・事業計画で藤本会長は、活動の大纲について、「少子高齢化、グローバル情勢の混迷、気候変動に伴う自然災

害の激甚化、生成AIやデジタル技術の発展等、大きな変化とあいまって先行きの不確実性が高まっている。そのような社会情勢の中、教育の果たす役割はますます重要となってくる。学校は、新潟県、新潟市が目指す教育を踏まえた教育活動等の推進が求められる。新潟県小学校長会は、全国連合小学校長会及び関東甲信越地区小学校長会連絡協議会、新潟県中学校長会等との緊密な連携のもと、県下全域の小学校教育充実に向けて積極的な取組を展開していく。」として、十の重点項目に取り組むことを提言した。

三 閉会式

開催地を代表して、新発田市立御免町小学校 土田利康校長が、今大会が滞りなく運営できたことに対し、関係者に感謝の意を伝えた。続いて、次期開催地を代表して、燕市立燕東小学校 鈴木華奈子校長が、今大会へのお礼と次期開催に向けての決意を述べた。最後に、多田副会長の閉会宣言で代議員会新発田・胎内・聖籠大会の全体会を閉じた。

(新発田・北蒲 外ヶ輪小学校)

県小学校長会
HPへアクセス



学校経営に役立つ
情報満載

対策部

部長 山本 郁雄

〔提案要旨〕

一 活動の重点

「各市町村における教育関連予算等の拡充」に焦点を当て、各郡市小学校長会・政令指定都市小学校長会や関係機関等の協力を得ながら組織的な調査研究を行い、各学校や各郡市小学校長会・政令指定都市小学校長会の対策活動の参考となる資料を提供することにより、その運営に寄与する。

二 活動の概要

市町村における教育関連予算等について、「市町村教育委員会への問合せ」と「校長」の二つの観点で調査研究を行い、報告書にまとめるとともに、資料編を作成し、各郡市小学校長会及び政令指定都市小学校長会における予算要望等の参考資料として提供する。

（一）調査研究内容

【市町村教育委員会への問合せによる調査】

- ・学校基本情報
- ・教育関連の各種人的配置人数
- ・「学校における働き方改革の推進」のための取組
- ・「給食の公会計化」への取組
- ・スクールロイヤーの配置

〔校長への調査〕

- ・特別支援教育の実態
- ・市町村予算による人的支援の現状
- ・市町村予算による人的支援の現状への満足度と現状を補う対応

「学校における働き方改革の推進」のための取組

- ・集金振り込み等に係る現状
- ・法的アドバイスが必要と思われる事業の発生状況

（二）調査研究活動

- ・各学校や郡市及び政令指定都市小学校長会の対策活動の参考となる調査研究活動の推進
- ・郡市及び政令指定都市対策部の取組を生かした活動の推進

三 調査研究内容の分担・活動予定

（一）第一調査研究委員長

- 委員長 上越市立中郷小学校校長
- ・市町村教育委員会への問合せによる調査

（二）第二調査研究委員長

- 委員長 新潟市立亀田東小学校校長
- ・校長への調査
- ・主な活動予定

（三）五〇十月…調査内容の検討、結果の整理・分析

- ・九月………「資料編」の発送
- ・十一月……「調査研究活動報告書」の原稿完成・提出
- ・一月………次年度の計画案検討（新潟 新潟小学校）

福利部

部長 清水 憲子

〔提案要旨〕

一 活動の重点

年々厳しさを増す教職員の給与・処遇の中、役職定年後の特例任用や教諭勤務、退職後の再就職及び福利厚生を巡る情勢に的確に対応するため、県中学校長会や全国連合小学校長会等と連携し、情報収集や調査研究を行い、給与水準等の維持向上やライフプランニングのための要望活動に資する。また、ライフプランに関する研修を推進し、教職員の福利向上に寄与する。

二 活動の概要

福利部内に三委員会を組織し、調査研究活動、要望活動、情報提供を行う。

（一）県小学校長会として行う調査研究活動等

- 1 校長の給与の実態についての調査研究活動及び給与水準の維持向上を図るための要望活動
- 2 役職定年後、校長退職後の再就職状況等の調査及びライフプランニングのための要望活動
- 3 退職後、定年延長等を見据えた意識調査及び情報収集

（二）県中学校長会等と一体となって推進する活動

- ・県内福利関係六団体への要望の取りまとめと懇談会の開催、ライフプランに関する活動のための協議及び報告書の作成（県小学校長会主管）
- 2 福利広報「退職時の手続き一覧」の作成と配付（県中学校長会主管）
- 3 福利厚生関連事業の活用や福利厚生施設利用促進の呼び掛けその他

- 1 県内福利関係六団体への要望の取りまとめと懇談会の開催、ライフプランに関する活動のための協議及び報告書の作成（県小学校長会主管）
- 2 福利広報「退職時の手続き一覧」の作成と配付（県中学校長会主管）
- 3 福利厚生関連事業の活用や福利厚生施設利用促進の呼び掛けその他

「調査研究活動報告書」の原稿作成と活動の振り返り

- ・調査研究活動報告書の原稿作成と活動の振り返り

三 調査研究委員会の活動内容・分担

- （一）給与委員会
委員長 長岡市立上川西小学校校長
- ・校長の給与等の実態調査、問題点の分析、要望集約
- （二）福利第一委員会
委員長 上越市立有田小学校校長
- ・役職定年後、校長退職後の勤務、再就職等の状況調査、ライフプランニングのための要望活動
- ・特例任用校長・暫定再任用校長を除く会員に対する、年金制度や定年延長についての意向調査
- （三）福利第二委員会
委員長 新潟市立立山小学校校長
- ・県内福利関係六団体への要望調査と懇談会開催及び懇談会報告書作成、六団体との協働によるライフプランに関する活動推進

（上越 直江津小学校）

研修部

部長 小島 隆宏

〈提案要旨〉

一 活動の重点

次期学習指導要領の理念を考察し、地域の信頼を得る創造的な学校経営を展開するために、校長会研究会を開催して研修を深める。また、教育課程、生徒指導、同和教育の三委員会を設け、調査研究活動や研修活動に取り組み、校長の資質・指導力の向上を図る。

二 活動の概要

(一) 校長会研究会

研究主題「未来を拓く新たな価値を創造し、豊かな社会をともにつくる子どもを育む学校経営」のもと、上・中・下越の三地区に分かれて研究会を実施する。主題に基づく各自の実践を「校長が主語」のレポートに凝縮して持ち寄り、「学校経営」の視点を明確にしながら討議し合う。創意と活力に満ちた特色ある学校の創造に向け、学び合い、磨き合う。

(二) 第七十八回全国連合小学校長会研究協議会北海道大会への参加

期 日 十月一日～二日
会 場 札幌市 札幌コンベンションセンター 他

(三) 第七十八回関東甲信越地区小学校

長研究協議会山梨大会への参加
期 日 六月十一日～十二日
会 場 甲府市 山梨県立県民文化ホール 他

参加者 本県から四十三名を予定

(四) 委員会活動

1 教育課程委員会

教育課程の実施状況や教育課程に関わる諸問題について調査研究を行う。全国連合小学校長会教育課程委員会の調査と比較したり、現状と課題を分析したりして、各校の教育課程の改善・充実のための資料とする。

2 生徒指導委員会

教員の生徒指導力向上と児童のネットトラブルに対する効果的な取組について調査を実施する。全国調査と比較しながら、県内小学校における現状と課題を分析・検討し、各校における取組の改善・充実のための資料とする。

3 同和教育委員会

新潟県同和教育研究協議会の各種委員の選出及び諸会議への出席、各種研究会への参加体制の確立などを通して、同和教育推進の活動を行う。

また、部落解放新潟県研究会、「いのち・愛・人権」展等、同和教育に関わる各種大会等に参加し、校長自ら同和教育についての認識を深める。(上越 柿崎小学校)

広報部

部長 山崎 勝之

〈提案要旨〉

一 活動の重点

会員の連携と学校経営の改善・充実に資するよう、県小学校長会及び各都市・政令指定都市小学校長会の活動や当面する諸問題に関する情報を提供するとともに、活動の記録として保管し、その活用を図る。

二 活動の概要

(一) 「初等教育」の発行

1 年一回、一月の発行とする。
2 「校長会報」との連携を図り、記録性・資料性の視点から、一層親しみのもてる会誌を目指す。

3 県小学校長会の活動、各地区研究会の記録、会員の研究実践や提言、新任校長の所感等を周知する。また、今日的な教育課題や方向について、有識者からの寄稿を通して、会員の資質向上を図る。

4 執筆依頼は、各都市・政令指定都市校長会の推薦を原則とし、会員数、過去の執筆状況等を考慮し、偏りや重複を避ける。

(二) 「校長会報」の発行

1 年三回、七・九・十二月の発行とする。

2 「初等教育」との重複を避け、

速報性を重視し、都市・政令指定都市小学校長会の活動や全連北海道大会・関ブロ山梨大会の様子等を紹介して、会員の学校経営に寄与する。

3 執筆依頼の際は、地区等の偏りが出ないように配慮する。

(三) ホームページの運用

1 県小学校長会及び各都市・政令指定都市小学校長会の活動等をWebページで広報し、会員相互の交流や県民に開かれた小学校長会の一助とする。

2 教育課題への提言や教育随想等、会員の取組を主に掲載する。

3 教育関係者、教職員、会員及び県民が各学校及び県内教育行政機関に容易にアクセスできるようにする。

(四) 調査研究活動報告書の発行

1 県小学校長会の各部の調査研究活動等を記録としてまとめ、一月に発行する。

2 県及び政令指定都市へ提出した要望書を掲載する。

(五) 全連小広報部との連携

1 「小学校時報」の配付と寄稿、全連小出版物の購入促進を行う。
2 全連小アンケートに協力する。
3 全連小ホームページ掲載「特色ある学校」の該当校を推薦する。

(小千谷 小千谷小学校)